

複式学級の解消に向けた説明会 会議録

- 1 開催日時 令和3年1月9日（土）午前9時～10時
- 2 開催場所 太田中学校 体育館1階
- 3 出席者 62名
- 4 教育委員会 鈴木教育長
 学校教育部 吉田部長、荻原参事、諸貫次長
 教育総務課 上野主幹、久積主査、田沼

5 会議内容

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	○開会
鈴木教育長	○あいさつ
諸貫次長	○資料を基に説明
出席者	○質疑 2年後には複式学級になってしまうことを聞いて、1日も早く統合に向けて教育改革を推進してほしいという気持ちでいっぱいになった。子供が増える可能性が薄い状況なので、1日も早く手を打っていかないと、次の世代が大変になることが想定されるので、強力に推進してほしい。
諸貫次長	今の子供達、これからの子供達のことを考えると、色々な友達ができる環境の中で勉強をしてほしいと思っている。期間としては令和5年度となり、2年余り時間がかかってしまう。地域の皆さんにもご理解をいただければ、スピード感をもって実現していくので、協力をお願いする。
出席者	見沼中学校区義務教育学校を断念したという話があったが、将来的に市内を4つのブロックに分けて計画をしている中で、太田地区には東ブロックの義務教育学校の計画があったが、それについても現段階では白紙になったのか。
諸貫次長	見沼中学校区では、北河原小、荒木小、須加小の3校と中学校1校で、小学校と中学校の子供達と一緒に過ごす施設一体型の義務教育学校を目指して協議を進めてきたが、実現することができなかった。将来的には、4つの中学校区を目指している。その中

	<p>には見沼中学校区も含まれていた。そのため、義務教育学校が実現できないということになると、長期的な目標は見直していく必要が生じてくると思う。短期的な取り組みとして、太田地区については、まずは太田西小・太田東小の再編成を進めていく。小中一貫教育の取り組みを全市的に進めていく中で、教育委員会としては義務教育学校が一番良いと思っている。小1から中3までと一緒に過ごすのが本来の義務教育学校であると思っているが、制度上は施設隣接型や施設分離型もある。太田中との小中一貫教育の取り組みでは、施設の問題があるので、すぐには義務教育学校にはできない。今後、小中一貫教育を進める中で、施設と子供達の数、規模の問題、地区の割り振りなどを踏まえて、義務教育学校について検討していく。全てが白紙という訳ではなく、小中一貫教育の取り組みを行っていくことを前提に見直していきたいと考えている。</p>
出席者	<p>コロナでPTA活動に苦慮している。説明を聞いて、小学校の統合は仕方ないと思うので、推進していきたい。コロナ関係の政府の対応に意気込みを感じない。本日もたくさんの方が興味を持って参加してくれているので、複式学級の解消に向けて、行田市教育委員会の熱意を伝えていただいて、合併を推進してもらいたい。</p>
諸貫次長	<p>緊急事態宣言が発出されたので説明会の開催についても考えたが、進めていかなければいけないという強い思いがあるため、対策をしながら皆さんにお集まりいただいた。地域の皆さんも非常に関心があると再認識した。色々な意見があると思うので、意見を踏まえて、多くの方が賛同していただけるのであれば、進めていきたいと考えている。</p>
出席者	<p>合併の話が出たのは何年か前だったが、もう少し早くやってほしかった。やはり小規模だと、体育にしても組み合わせで指導することができないことがある。我々が小学生だった昭和24～25年の頃は、ドッチボールをしても入れ替えができた。1学年10～15人程度だとそういったこともできず、かわいそうだと思う。多くの友達付き合いができるような環境を作ってあげたい。この合併が一日も早くできればと思っている。</p>
諸貫次長	<p>勉強だけでなく普段の生活についても、色々な友達とコミュ</p>

出席者	<p>ニケーションをとることで学べることは多いと思う。令和5年度には実現をしていきたいと考えている。</p> <p>子供がちょうど複式学級になる学年に該当するので統合という形で進めていただくことに関して感謝している。見沼中学区義務教育学校では地域の反対があったという話だったが、どのような反対意見があったのか。もし、太田地区についても反対意見があったら、統合の話がなくなってしまうのか心配している。</p>
諸貫次長	<p>義務教育学校として同じ施設の中で小学生と中学生が過ごすことは、小中一貫教育の面ではメリットがある。また、見沼中は1クラスで教科数分の先生の配置も難しい中学校なので、義務教育学校にすれば、小学校と中学校の両方の免許を持つ先生を優先的に配置することができるようにもなるメリットがある。ただ、義務教育学校がどのようなものかわからないことに対して納得いただけなかった。また、見沼中学校の校舎に小学生が入っていただくことを考えていたが、小学生が中学生の校舎に入ることへ心配する声があった。義務教育学校そのものに対する不安や子供達の生活に対する不安からの反対だった。義務教育学校設立は断念したが、北河原小、須加小は複式学級がずっと続いてしまっているので、解消するために保護者と話し合いを進めている。反対の内容にもよるが、過小規模校を解消していかなければいけないことは、皆さんに理解してもらえらると思う。そのため、複式学級の解消については、進めていきたいと考えている。</p>
司会	○閉会